

追悼文 名誉会員 故小西陽一博士



日本毒性病理学会 (JSTP) 名誉会員 (奈良県立医科大学名誉教授)、小西 陽一 先生におかれましては、2012 年 12 月 21 日に御逝去なさいました。御享年は、77 歳でいらっしゃいました。なんの予兆もなく突然に、御遺族のみならず、小西先生を知る多くの人達に、正に晴天の霹靂と言うべき驚きを与えて彼岸に旅立たれたのは、風雲児でいらした小西先生らしく、ほんとうに人生の最後まで劇的であられました。私としては、心より小西先生の御冥福をお祈り申し上げ、また、人生を走り続けてこられた小西先生に、ようやく訪れた安寧を満喫していただきたいと切に望む次第です。

小西先生は、1963 年に奈良県立医科大学を御卒業後、1964 年に医師免許を取得なさり、大阪厚生年金病院における医師実地修練と、奈良県立医科大学第 1 外科における外科医としての御勤務を経て、奈良県立医科大学大学院医学研究科病理 I 専攻に入学されました。

小西先生は、ここで、終生の恩師となる伊東 信行 先生 (JSTP 名誉会員) と運命的に出会われ、毒性病理学・発癌病理学の研鑽を積まれたのであります。当時は、動物の飼育から組織標本の作製に至るまで自らなさっていたとのことで、その御努力が後の小西先生のヴァイタリティの源となったのかもしれませんが。小西先生は、1968 年に大学院を修了して医学博士号を取得され、1971 年より約 3 年間、米国のテンプル大学附属フェルス研究所にて、第 2 の恩師となるエマニュエル・ファーバー先生の御指導を受けられました。小西先生は、常々、大学院時代と留学期間に培われた知識と経験が、御自身のライフワークである膵・肺・肝を中心とした発癌病理学研究の礎となったとおっしゃっていました。小西先生は、御帰国後の 1974 年に奈良県立医科大学腫瘍病理学教室の助手を拝命され、講師・助教授を経て、1981 年に教授に就任されました。小西先生は、その精力的な研究の過程で国内外を通じて幅広い人脈を築かれ、つい最近まで、日本中・世界中を飛び回っておられましたが、奈良県立医科大学腫瘍病理学教室員のほか、小西先生を慕って全国から集まる大学院生・研究生・専修生達の育成のためにその人脈を惜しみなく利用され、私達に国内外の第一線の研究者の方々に学ぶ機会を与え、留学や大舞台での発表の機会を与えてくださり、研究助成の獲得を指導してくださいました。私達がいくらかでも成果を上げてこられたのは、そうした先生のためな御指導の賜であります。

小西先生が、一貫して毒性病理学・発癌病理学の研究に邁進され、膵・肺・肝の発癌とその制御を中心とした幾多の画期的な成果により世界的な評価を受けるに至られたことは、皆様も御承知の如くで、これらの研究に対して、多くの研究助成や学術賞を受けてこられました。中でも、膵発癌とその制御に関する研究は、小西先生の名前を世界的に知らしめたもので、それに対して 2002 年に財団法人 (現 公益財団法人) 高松宮妃癌研究基金 学術賞を受賞されました。この学術賞の受賞は、小西先生にとってもっとも大きな誉れでありました。

小西先生は、活発な学会活動を行ってこられました。その御業績と御人格に対する高い評価により、国内外の多くの学会等の役員や、多くの学術雑誌の編集委員を歴任され、1998 年に第 44 回日本病理学会秋期特別総会、2002 年に第 8 回国際環境変異原学会奈良サテライトミーティングを開催されました。こうした華々しい学会活動の中でも、JSTP は、小西先生にとって格別のものでした。小西先生は、伊東先生・石川 栄世 先生・榎本 眞 先生・西山保一先生・藤原 公策 先生らを中心とした 1985 年の毒性病理研究会設立と、それを母胎とした、1988 年の JSTP 誕生の一翼を担われたことから、JSTP に対して大きな愛情を持っておられました。小西先生は、JSTP の理事・評議員を永年務められた後、名誉会員とされましたが、その間、1992 年に第 8 回 JSTP 年次学術集會を開催されました。さらに、小西先生は、伊東先生らによる国際毒性病理学会連合 (IFSTP) の設立に深く関与され、理事長を務められ、2004 年に福島昭治 先生による第 20 回 JSTP 年次学術集會との共催で第 5 回 IFSTP 学術集會を開催されました。また、小西先生は、国際毒性病理学アカデミー (IATP) の設立にも深く関わられ、アジア地区 (現 アジア太平洋地区) 理事を務められました。JSTP・IFSTP・IATP におけるこれらの熱心な活動は、小西先生の毒性病理学への深い愛情に基づくものであります。小西先生は、御自身と一門による毒性病理学分野での研究に注力なさる一方で、毒性病理学の振興とそれに携わる人々の後援、そして何より若手の教育に大きく貢献なさいました。小西先生が、日本国際生命科学協会 (ILSI Japan) の副会長としての御立場から、ILSI 国際毒性病理学セミナーを 17 年間にわたって開催されたことは、皆様の御記憶に残っているものと存じます。私は、これこそ、小西先生の御業績として銘記すべきものであると確信しています。

小西先生の毒性病理学をはじめとする医学・生命科学に対する御貢献は、きわめて大きなものであります。私は、小西先生の御業績と想いが毒性病理学・発癌病理学に携わる研究者に受け継がれ、彼ら・彼女らを通して永遠に生き続けることを信じ、小西先生からいただいた御指導の数々に感謝し、心より哀悼の意を表するものであります。